新型コロナ対策
トップが語り合う

あなたが受診を休んでも、病気は休みません

「風邪かな」と思ったら、「かかりつけ医」か「積極ガードダイヤル」へ相談を

冬になって新型コロナウイルスの感染者が急増する中、広島県と広島県医師会（広島市東区）は連携して感染拡大の防止に力を入れています。新型コロナ対策やコロナ禍に伴って起きている「受診控え」について、湯﨑英彦知事と県医師会の松村誠会長が話し合いました。（対談は12月4日に実施）

広島県知事
湯﨑 英彦 さん

広島県医師会 会長
松村 誠 さん

過度な受診控えに注意
PCR検査体制を拡充

松村さん　湯﨑さん

―新型コロナ対策として、重点的に強化している施策は。

湯﨑　感染拡大を食い止めるためには、充実した検査体制が欠かせません。県医師会の協力も得ながら、8月から身近な医療機関で迅速にPCR検査が受けられる体制を整えてきました。千以上のクリニックで唾液による検体採取ができるようになり、その規模は全ての都道府県の中でもトップレベルです。さらに、1日当たりのPCR検査能力は、県が契約している県外の民間検査機関も含めると1日最大4600件。2020年度末には約5700件まで増やす予定です。

松村　唾液によるPCR検査だけでなく、鼻腔から検体を採取する抗原検査も、600以上の医療機関で実施できるようにしています。駐車場や敷地内にプレハブやテントを設置して診療や検査をしている医療機関もあり、身近な場所で検査を受けられるようになったので、県民にとっては便利だと思います。

湯﨑　広島市内では急速に感染が広がってきているため、高齢者施設や飲食店の従業員らが無料で検査を受けられる「広島PCRセンター」を今月、中央新天地集会所（中区）と広島西飛行場跡地（西区）に開設しました。西区のセンターはドライブスルー方式です。

入院治療 400床受け入れ

―感染者の受け入れや治療の体制はどうですか。

松村　「帰国者・接触者外来」を49の医療機関で担ってもらい、18の感染症指定医療機関などにある約400床で入院治療ができる体制を整えています。それぞれの医療機関が役割分担し、感染対策を講じながら診療・検査に力を入れています。

湯﨑　県は、病床やホテル部屋の確保目標を感染状況に応じて三つに分けています。最もレベルの高い「フェーズ3」（ピーク時で1日に800人以上の感染者が出たという想定）になった場合は、病床500床とホテル部屋数700室を目標としており、多くの感染者が出たとしても受け入れ可能な体制を整えるつもりです。

とはいえ、感染リスクを高めているのは、お酒を飲みながらの長時間の飲食です。医療体制を守るためにも、県民の皆さんにはそれを忘れないで行動していただきたいです。

―医療機関での院内感染などを防ぐため、感染の疑いがある県民には事前予約による受診を呼び掛けています。

松村　発熱や喉の痛みなど疑わしい症状があるからといって、いきなり医療機関を受診するのではなく、かかりつけ医か専用窓口の「積極ガードダイヤル」に電話していただきたいです。かかりつけ医を窓口とした場合、そのクリニックが新型コロナの診療や検査をしていれば受診できます。対応していない場合は、最寄りの医療機関を紹介してもらえます。一方、かかりつけ医がいないなど相談先に困った時には積極ガードダイヤルを活用してください。受診できる医療機関を教えてもらえます。今後も受診可能な医療機関を増やしていく予定です。診療費用は必要ですが、検査は無料です。

湯﨑　「風邪かな」と思ったり、体調に異変を感じたりしたらすぐ相談してほしいですね。発症から判明までの日数が短ければ、感染の拡大も防げます。自分のためだけでなく、家族や職場の同僚を守るためにも早めの行動を心掛けてほしいです。

健診や予防接種受けて

―感染を恐れるあまり、県民の間で「受診控え」が広がっています。

松村　過度な受診控えは、健康上のリスクを高めてしまう可能性があります。受診を控えても病気は休んでくれません。中でも、呼吸器や腎臓、心臓、血管の疾患や糖尿病、高血圧症などの患者さんは重症化しやすいので、ためらわず受診してほしいですね。特に小児科や耳鼻科の受診控えが多い傾向です。乳幼児の場合は「健康診査控え」も目立っています。健診はもちろん予防接種も適切な時期に受ける必要があります。

湯﨑　県が8、9月に、医療機関を対象に実施したアンケートでは、約8割の施設で患者数が前年より減少していると分かりました。県では全ての医療機関を対象に、感染防止対策費用の支援を実施しており、補助金の早期給付に努めているので、医療機関にはぜひ活用していただきたいです。

また、県民の皆さんにはがん検診や生活習慣病を予防するための特定健診を後回しにしないでいただきたいですね。がん検診については12月を予約強化月間とし、電話や無料通信アプリLINE（ライン）、ウェブによる予約サポートも実施しています。デジタルも積極的に活用しながら受診勧奨をしていきたいと考えています。がんは早期発見が大切です。検診機関もしっかり感染対策をしていますので、安心して受診してほしいです。

―最後に県民へのメッセージをお願いします。

松村　県内31市区郡地区医師会と広島県医師会は県とともに、一体となって新型コロナと闘っています。県民の皆さんの健康と命、生活を全力で守っていきます。

湯﨑　危険を顧みず、感染患者の治療に当たっている医療関係者には感謝を申し上げたいです。新型コロナ対策はもちろんですが、団塊の世代が後期高齢者となる25年が迫る中で介護や医療を巡る課題は山積しています。県は医療関係者の皆さんと連携しながら、緊急の課題から中長期的な問題まで幅広く取り組んでいきたいと考えています。

―ありがとうございました。

発熱などの症状のある場合の相談・受診の流れ

症状のある方は、まず電話

- まずは、かかりつけ医に電話相談 ⇒相談先の医療機関で診察・検査できない場合は、他院を紹介
- 相談に迷ったら、（受診・相談センター）「積極ガードダイヤル」県が指定した身近な医療機関をご案内

↓

診療・検査医療機関

↓

検査機関

「積極ガードダイヤル」

お住まいの地域	連絡先（24時間対応）
広島市	082-241-4566（広島市各保健センター）
呉市	0823-22-5858（呉市保健所）
福山市	084-928-1350（福山市保健所）
広島市・呉市・福山市以外	082-513-2567（県の保健所・支所）

企画・制作／中国新聞社 地域ビジネス局

医師会は新型コロナと闘っています

広島市医師会
広島市中区医師会
広島市東区医師会
広島市西区医師会
広島市南区医師会
広島市佐伯区医師会
呉市医師会
福山市医師会
尾道市医師会
三原市医師会
因島医師会
大竹市医師会
安芸地区医師会
安芸区医師会
佐伯地区医師会
安佐医師会
安佐南区医師会
安佐北区医師会
安芸高田市医師会
山県郡医師会
賀茂東部医師会
東広島地区医師会
豊田郡医師会
竹原地区医師会
世羅郡医師会
松永沼隈地区医師会
深安地区医師会
府中地区医師会
三次地区医師会
庄原市医師会
広島大学医師会

もみじ医

HMA
一般社団法人 広島県医師会
平和な世界を医療でつむぐ
広島県医師会ホームページ
http://www.hiroshima.med.or.jp